

子供と過ごす時間は年々約 328 時間減少 「子供との共有時間に関するアンケート調査」を実施

雪印メグミルク株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:西尾 啓治)は、家庭内における子供と共有している時間を把握するため、未就学児から中学生の子供を持つ母親(25~49 歳)1000 人を対象に「子供との共有時間に関するアンケート調査」を行ないました。

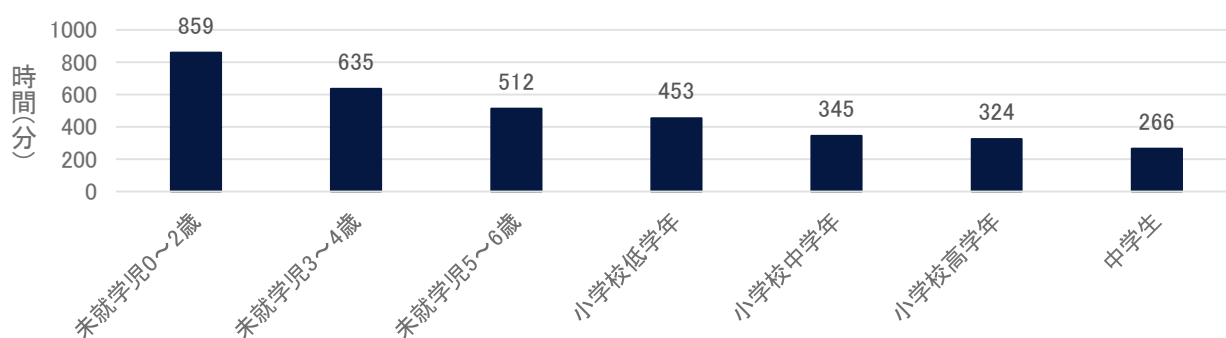
調査サマリー

1. 子供との時間は1年ごとに1日平均54分、年間になると328.5時間減少
2. 子供との時間が増えたと答えた小学生(高学年)の母はたった2.1%
3. 子供との時間で最も減少しているのは「外出」が41.1%
4. 子供との時間で大切にしたい瞬間、圧倒的1位は「喜んでいるとき」83.1%
5. 親離れを悲しいと感じる一方、子供の成長に幸せを感じる母親は97.4%
6. 子供の「自己主張」と「思いやり」は成長のサイン

1. 子供との時間は1年ごとに1日あたり平均54分減少(年間になると328.5時間減少)

Q1 あなたは、1日の中で、どの程度の時間をお子様と一緒に過ごしますか。

母親と子供が一緒に過ごす時間

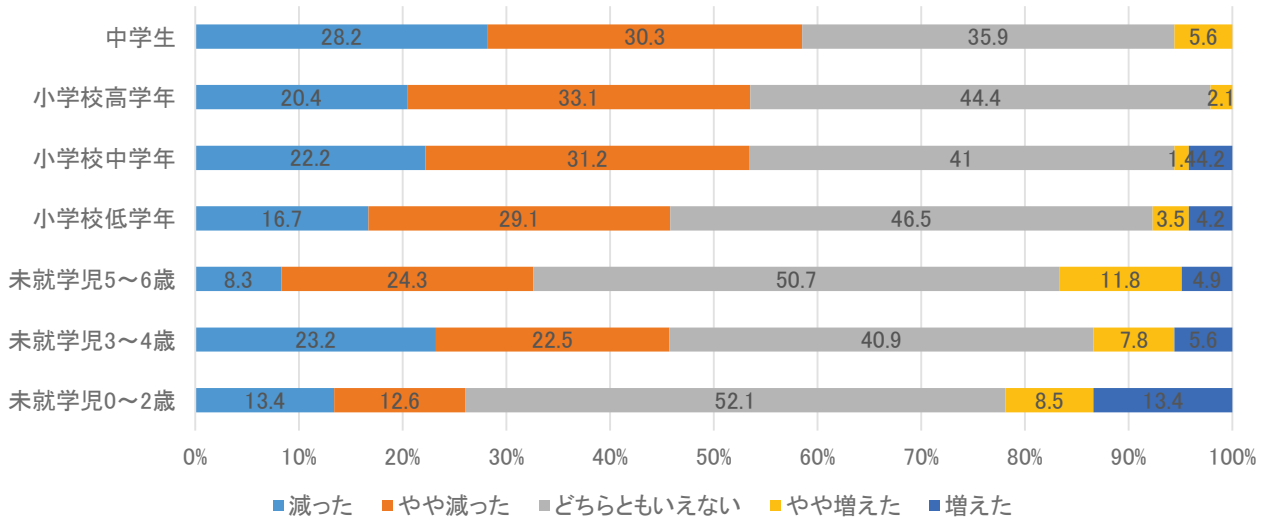


グラフからわかるように、母親と子供の時間は子供が成長するにつれ、年々減っていきます。中でも幼稚園等に入園するタイミングと重なる、未就学児0~2歳から未就学児3~4歳に移行する時に最も減少します(224分)。未就学児0~2歳が母親と過ごす時間は1日平均約14時間(859分)。一方で中学生(13~15歳)が母親と過ごす時間は平均約4時間(266分)。よって母親が子供と一緒に過ごす時間は2歳時(859分)から11年経った13~15歳時(266分)とで比べると約10時間(593分)減っています。つまり、1年ごとに1日平均54分減っていくということになります。

2. 子供との時間が増えたと答えた小学生(高学年)の母はたった 2.1%

Q2 あなたは、1年前と比べてお子様と一緒に過ごす時間が減っていると思いますか。

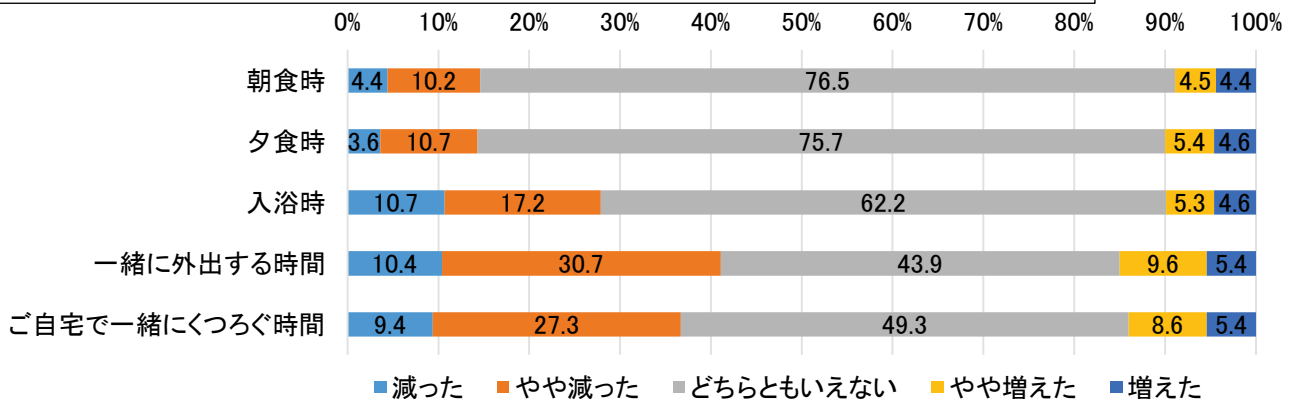
1年前と比較した子供と過ごす時間



中学生の子供を持つ母親の 58.5%が「子供と一緒に過ごす時間が減っている」と思っており、他の年代に比べ、最も多いことがわかりました。また、時間が増えたと答えた小学生(高学年)の母は 2.1%と極めて低い結果となりました。

3. 子供との時間で最も減少しているのは「外出」が 41.1%

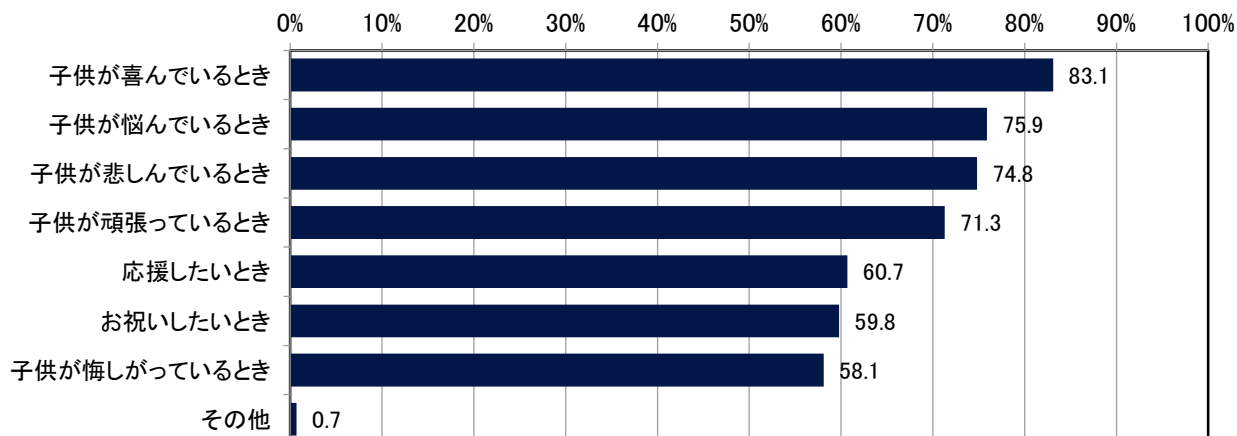
Q3 以下の項目について、あなたは1年前と比べてお子様と一緒に過ごす時間が減っていると思いますか。



「以下の項目について、一年前と比べてお子様と一緒に過ごす時間が減っていると思いますか」という質問に対し、41.1%が「一緒に外出する時間」と回答しています。次いで 36.7%が「ご自宅で一緒にくつろぐ時間」が減っていると回答しています。食事や入浴など衣食住以外の時間を家族と過ごすことが減っていると感じている母親が増えていることがわかりました。

4. 子供との時間で大切にしたい瞬間、圧倒的 1 位は「喜んでいるとき」 83.1%

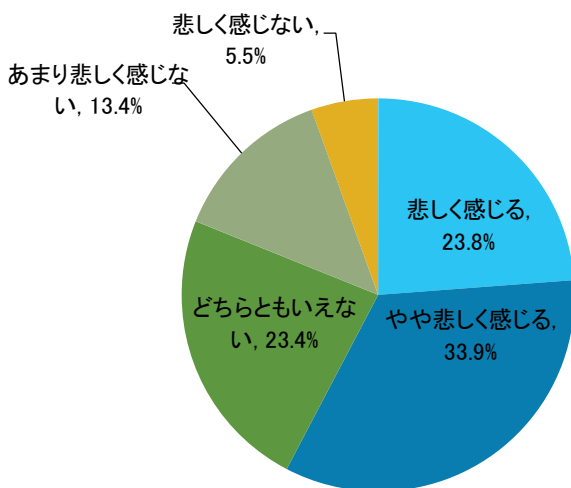
Q4 子供と過ごす時間が減った場合でも、どのような時間は大切にしたいと思いますか。



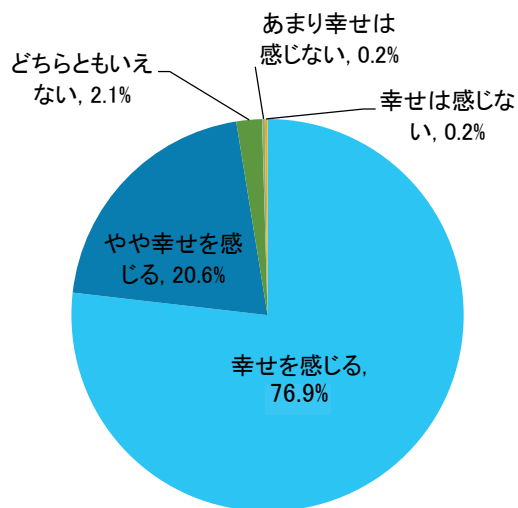
子供との時間で大切にしたい瞬間を訊ねたところ、「子供が喜んでいるとき (83.1%)」、「子供が悩んでいるとき (75.9%)」、「子供が悲しんでいるとき (74.8%)」、「子供が頑張っているとき (71.3%)」、「応援したいとき (60.7%)」、「お祝いしたいとき (59.8%)」、「子供が悔しがっているとき (58.1%)」などが挙げられました。最も多く回答があったのは、「子供が喜んでいるとき」で、やはり母親は子供が喜んでいるときが一番嬉しいと思うことがわかりました。

5. 親離れを悲しいと感じる一方、子供の成長に幸せを感じる母親は 97.4%

Q5-1 あなたは、いつか訪れる「親離れ」を悲しく感じますか。



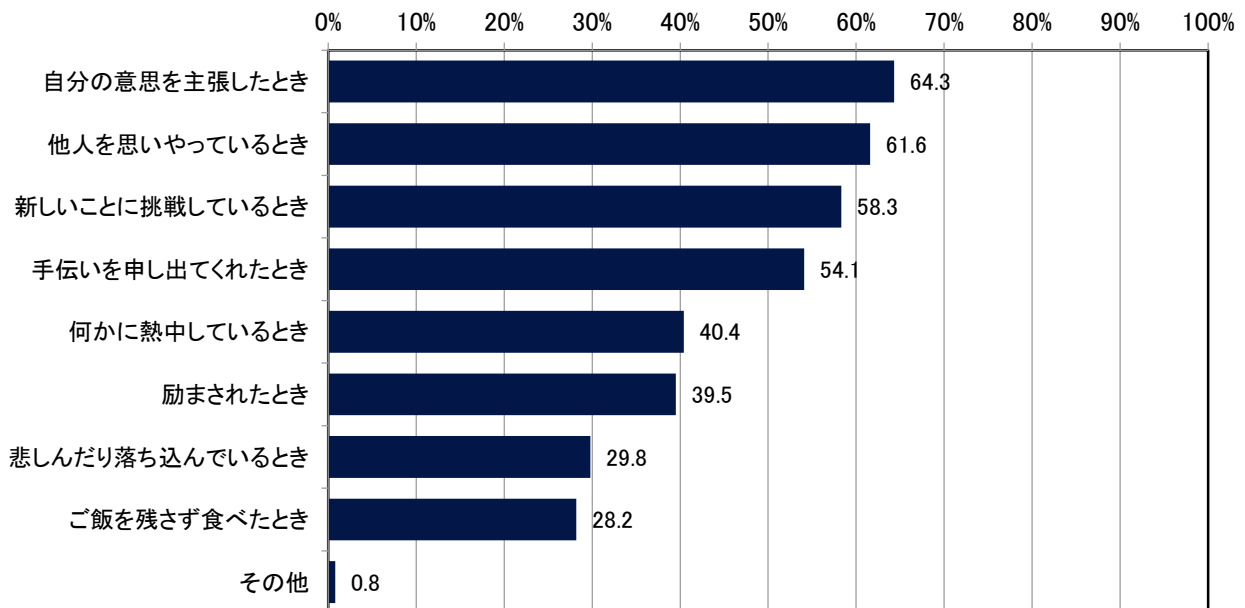
Q5-2 あなたは、子供の成長に幸せを感じますか。



親離れを悲しく感じる母親は 57.7%。しかしそれを上回る 97.4%の母親は子供の成長に幸せを感じています。自分から離れて独り立ちしていく姿に寂しさを感じる反面、子供の成長を嬉しく思うという、相反する母心が表れています。

6. 子供の「自己主張」と「思いやり」は成長のサイン

Q6 母子2人で過ごす時間で、どのようなときに子供の成長を感じますか。



子供の成長を感じる瞬間ランキング上位は大きく分けて2つの項目に分けられます。「自己主張をするタイミング」と「他人に対して思いやりを持つタイミング」です。大人に近づき1人の人として意見を持ちつつ、自分のためだけでなく、他人のために動くことができたことに成長を感じる母親が多いようです。本動画の最後のシーン、「さけるチーズ」を母親に半分分ける子供の姿に重なります。

<調査概要> 調査方法: インターネット調査(全国)

調査対象者: N=1000 / 調査期間: 2017年4月20日(木)~24日(月)

■対象条件

性別: 女性

年齢: 25歳-49歳(未就学児~中学生の子供をもつ母親)

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先
WEB動画「母の半分」PR事務局(マテリアル内) 担当: 迫川
TEL:03-5459-5490 FAX:03-5459-5491
MAIL:hpr@materialpr.jp